

四番箱  
未二段

939

新

性  
中  
書

今





四箱箱  
二袋

封

封

封  
封  
封

封

封



Handwritten text in Chinese characters, including a signature and address, written on aged, textured paper. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be in seal script or a highly stylized cursive form. The paper shows signs of wear, including creases and discoloration.

Red stamp or seal impression, likely a postmark or official seal, located in the upper left corner of the document. The characters are in red ink and appear to be in seal script.





古書題

十卷 卷一 卷二 卷三 卷四 卷五 卷六 卷七 卷八 卷九 卷十

中今之書也 初訂之式百字方一五仕

如海戶之口力公之也 故一州在島傳揚上

皇天是年八月 似天 聖德太子 造佛

尸之白園 病體 乃自 小引 之 位 年 志 十

五 乃 一 平 力 也 乃 右 揚 島 也 也 乃 有 年

一 萬 年 也 乃 有 年 也 乃 有 年 也

十三ヶ條を完

十 勤王の義兵を以て子細をなす事也と云

中世に於ては知のて其百中の一五仕

仕後、其の力よむ事成、則ち其の功也

なるべしと云、仕後、其の功也、其の功也

其の功也、其の功也、其の功也、其の功也

其の功也、其の功也、其の功也、其の功也

其の功也、其の功也、其の功也、其の功也

一 討ふるに考はしき業は極端に多し。役は  
計利お他は借地は役と波削禁の上  
に成るにや成しりふに金銀の計利  
借付嚴重に波削役は舟漕はと老を  
後代に下人を押さすに付るまことより  
たてし事

一 弟の役はたき業は及役は勿論に  
父子の役は月個とすに付志忠は借家業

若百程の事なりとすに付るは以て之に  
おくし方の中を以てはしき業はさしに付る  
取引不仕事

一 弟の事はたき業の事なりとすに付るは  
さしに付るに付る加増を以て去る  
年債業に以てはしき取引不仕事

一 式百程の上は役は舟漕は舟中衣也とすに  
馬持の事は借家の事なりとすに付るは

此儀、役あり積五、人死、沖、可、計、沙  
有云、と、き、は、乃、也、と、い、ふ、金、息、云、は、つ、り  
一、沖、空、大、主、動、し、中、に、其、言、古、老、元、世、を、  
而、持、持、つ、御、り、乃、由、り、と、い、ふ、何、れ、と、い、う  
心、不、信、と、い、う

一、家、中、一、信、取、多、き、子、細、に、在、る、時、代、り、と、  
外、浪、路、に、金、銀、取、り、と、い、ふ、利、息、と、い、  
利、を、と、り、猶、更、に、信、取、は、信、取、し、取、り、と、  
た、と、い、う

た、と、い、う、に、信、取、利、息、と、い、ふ、と、い、う、と、い、う

あ、ん、と、い、う、乃、と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う  
若、く、は、并、抽、取、し、取、り、と、い、う、と、い、う、と、い、う、と、い、う  
毎、り、と、い、う、乃、と、い、う、細、方、拂、方、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う

抽、取、し、と、い、う、乃、と、い、う、抽、取、し、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う  
乃、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う

一、乃、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う  
乃、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う、乃、と、い、う

と清業尸付お改かて、物再、おき人尸付  
地取、お尸付、お改、お改、清業下、  
調主、自由、お改、お改、

一 物取を相定り、お改、お改、お改、  
お改、お改、お改、お改、  
一 清業、お改、お改、

一 侍又、清業、お改、お改、  
お改、お改、お改、お改、

自由、お改、お改、お改、

お改、お改、お改、お改、

一 清業、お改、お改、お改、

お改、お改、お改、お改、

清業、お改、お改、お改、

お改、お改、お改、お改、

一 清業、お改、お改、お改、

お改、お改、お改、お改、



一 又人の足如く増く下りて行かざる如く  
は道ありてし物に著るに道なき如く  
死中に在るに横風自比に依りて  
自ら依りて下りて行かざる如く  
道ありてし物に著るに道なき如く  
死中に在るに横風自比に依りて  
自ら依りて下りて行かざる如く  
道ありてし物に著るに道なき如く  
死中に在るに横風自比に依りて  
自ら依りて下りて行かざる如く

沖公儀止之を敬老止物老海老有斗  
なく塔忠仕奉りし事  
大に條、去寅ノ年、去重孫を以て仕  
法業の義の、下中を以て致し、其の形  
と爲物老持と下りて其の法業、逃  
動らりて下中仍出件

寛永七年八月廿

相公長子守

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or document, written on aged paper. The text is oriented vertically and appears to be in a historical or regional script. The paper shows signs of wear, including three distinct horizontal fold marks or creases near the top edge.